

きよもりななべんてん

清盛七辨天

ひょうごしちふくじん

兵庫七福神

多日は歩くほど
兵庫区
歴史花回道



ぐるーっとまわってみよう！

あんぜんべんてん



①和田宮

あながくべんてん



②真光寺

清盛



③能福寺

あまのり



④来迎寺

べんきょうべんてん



⑤菩提寺

うんどうべんてん



⑥恵林寺

あしやれべんてん



⑦兵庫瀬島神社

れんあひべんてん



⑧氷室神社

けんこうべんてん



⑨花隈瀬島神社



大黒天 だいこくてん



⑩福海寺

あまのり べんざりてん



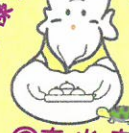
⑪和田宮

あまのり じゅうじん



⑫薬仙寺

あまのり じゅうじん



⑬真光寺

あまのり びしあてん



⑭能福寺

あまのり ほとり



⑮柳原天神社

あまのり えびす



⑯柳原錠子神社



俵に乗っているのは「毎日ごはんを供えてお参りすれば、一生食に不自由はさせない」というお告げがあった話から結びついたようです。食堂や台所に祀られる事が多く、家の大黒柱

恵比寿さまは、右手に釣竿、左手に鯛を抱えています。はじめはそのお姿から想像できるように漁の神様でした。海の彼方から渡って来た豊漁をもたらす神様として、また航海安全の神様として港の近くに多く祀られていました。港は船の出入りによって商売が繁盛するので、商売繁盛の神様としても有名となりました。

大黒天

元は、インドの古代神話に登場するサラスバティ（水を持つもの）という神様です。海や池、川など水のあるところに多く祀られます。水の流れは音楽に結びつき、芸能の神様としても信仰されています。

弁財天

寿老神は一般的には寿老人と書きます。寿星の化身または老子の化身と言われ、その姿は長い白髪、長い頭の仙人姿で、福祿寿と団体異名と言う説もあります。福祿寿の鶴亀に対し、鹿を伴っている姿が多いようです。この鹿は千年以上生きている鹿で、その肉を食べると二千才の長寿を得るという話も伝わっています。

寿老人

兵庫七福神

江戸時代、庶民の間で大ブームとなった七福神めぐり。福を呼ぶ神様七か所を巡礼することで、「七難即滅・七福即生」つまり七つの災いから逃れ、七つの福德が授かるといわれています。

帝釈

中国の唐代末頃に実在したお坊さんです。比較的小柄でお腹が出て、破れた衣を着て、生活に必要なものがすべて入っていた大きな袋をいつも持っていました。占いや天候を予知することが上手で、雪の中に寝ても体が濡れなかったという話があります。

毘沙門天

四天王及び十二天の一人で、鎧を着ているところに特徴があります。多聞天とも呼ばれます。漢字で書くとまったく別の神様のようになりますが、意味はすべてのことを一切聞きもろさない知恵ものという意味です。七福神の中では、勝運の神様で、仏法を守護し道徳を授ける神様です。

福祿寿

元々は中国の道教の神様です。人の命をつかさどる南極星の神様です。鶴と亀を愛した老人の神様で、年齢は数千歳と言われ、長寿と人望にご利益があります。福は幸福、祿は高給、寿は長寿につながると言われます。

氷室神社

日本書紀によると今から1600年ほど前、仁徳天皇の異母兄・額田大仲彦は、この地で狩りをしていた時、穴倉を見つめました。村長に「冬に取った氷を萱草で包んでおくと、夏になってもこの氷を使える」と聞き、天皇に献上したところ、たいそう喜ばれたことからこの地に仁徳天皇を祀って創建されました。

花隈厳島神社

元は、宇治川の左岸にありましたが、明治の初年に神戸港の建設により中央区栄町通に移り、昭和22年神戸中央郵便局の開局のため、現在の花隈町に鎮座しました。宇治川と国道2号が交わるあたりが、弁財天となっているのは神社があったなごりからです。

和田神社(和田宮)

元は、現在地から西南に約800mの海岸にあり「蛭子の森」と呼ばれていました。平清盛が大輪田の泊修築の際、事業の無事と将来の繁栄を祈願し安芸の宮島より市杵嶋姫大神を勧請しました。その後、南浜総氏神と広く人々に親しまれ、隣松院と呼ばれた社務所には、西国大名や勝海舟などが訪れました。

真光寺

時宗の開祖、一遍上人が亡くなったところに建立された寺です。境内の左手に一遍上人の廟所があり、五輪塔は県の重要文化財に指定されています。一遍上人は遊行上人と呼ばれ『おどり念仏』という独特の布教方法により、全国を遍歴したことで有名です。

兵庫厳島神社

この付近は、昔「渦輪」と呼ばれた湊川の旧川筋にあたり、さらに地下水も湧き出して洩のようになっていたといわれています。清盛が兵庫津発展のためにこの神社を建立したといわれています。また、清盛ゆかりの「外弁天」と伝えられています。2月8日には毎年針供養にたくさんの方が訪れます。

清盛七辨天

兵庫の港は、大輪田の泊と呼ばれた昔から天然の良港として知られ、平清盛はこれを改良し、更に便利な港として外国との貿易を盛んにし、我国の経済の発展を図ろうと兵庫に築島（経ヶ島）を築きました。承安4年(1180)に清盛は安芸国の厳島神社を勧請し、このとき宮島にある七つの海岸にちなみ、兵庫に七つの辨財天をお祀りしたのがはじまりです。

URL:www.kcc.zaq.ne.jp/wadamiya/

能福寺

唐留学の帰途和田岬に上陸した伝教大師が自作の薬師如来（本尊・秘仏）を安置し、我国最初の教化霊場としました。境内には、奈良、鎌倉に並び日本三大仏の一つ兵庫大仏があります。昭和19年の金属回収により国へ供出しましたが、関係者の努力により、平成3年に再建されました。

恵林寺

貞和2年(1346)錦江省文禅師により開山された臨済宗のお寺で、福原西国三十三ヶ所の第二十八番札所です。境内には、平清盛が経ヶ島築造の際に困難や水難克服を祈願して立てられた弁財天社があり、「波除（なみよけ）の弁天」と呼ばれていました。

濟鱗寺

明応2年(1493)真譽林光上人の開祖。「西連寺」と号していましたが、海中より出現の阿弥陀仏像を本尊とし、魚類済度を合わせ行ったため、濟鱗寺と改めました。その後五百羅漢像を建立するも、先の大戦により本堂以下全てを消失し、現在は仮の本堂に阿弥陀仏像をお祀りしています。

来迎寺

平清盛が経ヶ島築造をする際、幾度かの暴風雨と大波に見舞われた大変な難工事でした。清盛は旅人を人柱にし、海神の怒りをなだめようとしたが、17才の松丸丸が代わりに自分が人柱になると願い出て、経文を記した石と共に沈みしました。「松王小児入海」の碑と墓が残されています。

【お問い合わせ】

「兵庫七福神・清盛七辨天めぐり」

実行委員会事務局

〒652-0863

神戸市兵庫区和田宮通

3丁目2-45

(和田神社社務所内)

TEL (078) 652-1551